

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：中山 美穂子 所属：栃木県立のぞわ特別支援学校 記録日：2016年 2月10日

キーワード：肢体不自由、情報の獲得ツール、コミュニケーション指導

【対象児の情報】

- 学年 高等部3年 女子 普通科（通常課程）
- 障害名 脳性まひ
- 障害と困難の内容
 - ・肢体不自由
 - ・成育環境から様々な社会的経験が極端に不足している

【活動目的】

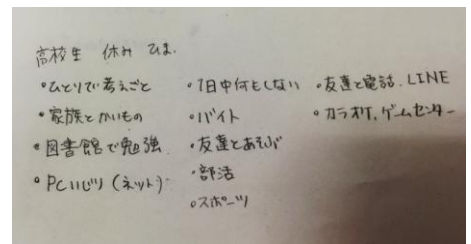
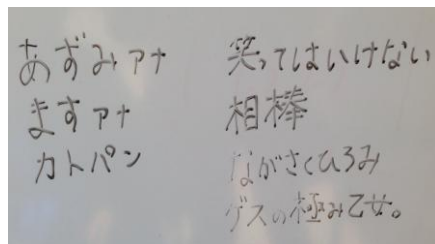
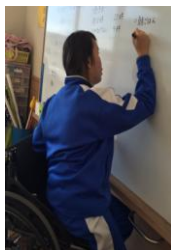
- 当初のねらい
 - ・iPhone を活用することで、色々な情報を獲得し余暇活動を充実させることができる。
 - ・情報を容易に獲得するツールを実感することで、生きる楽しさを感じることができる。
 - ・興味関心の拡大により、周囲と円滑なコミュニケーションをすることができる。
 - ・機器を活用し様々な情報を獲得することで、同年齢の友だちと自信をもってコミュニケーションをすることができる。
- 実施期間
平成27年4月14日から平成28年2月5日
- 実施者
特別支援学校 高等部 学級担任
- 実施者と対象児の関係
担任と生徒

【活動内容と対象児の変化】

- 対象児の事前の状況
 - ・移動は車椅子を自操し、1時間程度校外を自走可能であり、日常生活（着替え、排せつ、食事、入浴等）は自立している。
 - ・乳幼児期から肢体不自由対象の医療型施設にて成育し、社会経験が極端に不足している。
 - ・何事にも受動的であり、笑ったり喜んだりする様子が少ない。
 - ・感情に疎くコミュニケーションが苦手であり、社会的な出来事への興味関心が非常に低い。
 - ・生育環境から、何かをしたいと要求することがなく、無自覚に諦めてしまう。
 - ・詩や絵の創作が好きである。
 - ・将来的には一般就労を希望している。
- 活動の具体的内容
 - (1)使用アプリ：Safari、電話、メール、カメラ、メッセージ、ミュージック、LINE
 - (2)内容
 - ・原則担任と一緒に活用。必要に応じて生徒一人で活用。（保護者と施設は活用について了承）
 - ・医療型の施設であるため、施設へ持ち帰ることは不可
 - ・長期休暇中に保護者宅への帰省時は活用（保護者と相談し一日に1度担任に連絡することにした）
- ①Safari：周囲との情報格差を縮小させ、共通の話題で話す楽しさを実感させるため
(朝と帰りのHR前や休み時間、昼休みを活用してインターネット検索)

- ・分からない言葉や話題の検索、時事ニュースや芸能・スポーツニュースの検索、同年齢の高校生の生活状況調査
- ・校外学習や長期休暇中の外出時のバスや電車の時刻表
- ②電話とメール：社会人となったときの電話やメールのルールとマナーの定着が必要なため
 - ・校外での活動時に学校、保護者や施設職員への居場所や活動内容の報告や連絡
 - ・学校行事の日程等について保護者との連絡
- ③カメラ：余暇活動の充実、使用方法の工夫が生活を便利にするため
 - ・校外学習や修学旅行、グループホームへの体験学習にて活用
 - ・時刻表をカメラで撮影し、拡大して時間を確認
 - ・友達とメッセージやLINEにて画像の送受信
- ④メッセージ：LINEやメール以外の連絡ツールがあることを知るため
 - ・友達との交流（長期休暇中の保護者宅への帰省時に友達との連絡ツールとして活用）LINEの活用後は使用頻度が減少
- ⑤ミュージック：余暇活動を充実させるため
 - ・本生徒は音楽鑑賞が趣味であり、iTunesから自分で好きな音楽を検索しダウンロードし視聴
- ⑥LINE：今まで、閉鎖された環境で生活していたことから、多くの（特に同年齢程度の）人たちとの交流を増やすため
 - ・友達との交流（長期休暇中の帰省時や遠方に出かけた時や、欠席した友達との連絡ツールとして活用）

①Safari



↑インターネット検索時の様子

↑知らない言葉のメモ

↑同年齢の高校生の生活状況調査

②保護者との連絡



③カメラ（メッセージでも使用）

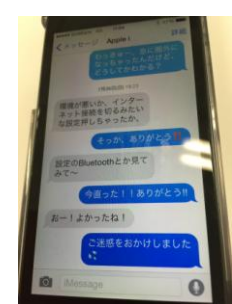


←メッセージ
でやり取り



本人が加工→

④メッセージ



友達とのやり取り

⑥LINE（カメラも使用）



←外出時に友達
への連絡

好きなスタンプ→



↓やり取り

○生徒の感想

- ・今流行していることやドラマ、ニュースがわかって友達との会話が増えた。駅やバス停にいかなくてもインターネットで検索することができるのが嬉しかった。
- ・どこにいてもすぐに連絡が取れることができて、いざというときに助けも呼べて相談もできて安心した。メッセージやLINEを使い始めるとあまり使わなくなったが、長文の内容はメールがいいと思った。
- ・使い捨てカメラと違って撮影後すぐに画像を確認することができたり、加工したりすることができるのでとても楽しかった。また、遠くて見えにくかった時刻表を撮影して拡大してみることができ、工夫次第でとても便利になると思った。
- ・絵文字の活用して、相手が楽しい気分になるような送り方を勉強できてよかった。
- ・iPhone 1つを持つだけで電話もできるし音楽も聞けて荷物が少なくなり便利だと思った。
- ・友達や先輩が「LINEって楽しいよ」と話していた理由がわかった。スタンプを使って友達と楽しく話ができ、とても嬉しかった。自分の好きなようにスタンプを探したり、送ったりできて楽しかった。

※LINEの危険性については、新聞等を活用し事前に学習している

○対象児の事後の変化

- ・笑うことが増え、友達や教師と顔の表情や身振り手振りを使って会話するようになった
- ・自分から友達や教師に話しかけるようになった
- ・顔の表情が豊かになり、色々な活動に意欲的・積極的に活動に取り組むようになった
- ・色々な人が自身の創作したイラストや漫画をインターネットに発表していることを知り、自分も発表したいと発言するようになった

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ①色々な情報を知ろうとすることや知っていることはとても大切なことだと理解した
- ②周囲と共通の話題で話せることが楽しいしいことだと理解し、コミュニケーション欲求が高まった
- ③共通の話題で友達や教師と対等に話し合うことができると実感し、自己肯定感が高まった

○エビデンス

①について

- ・環境から自分で情報を獲得する必要性を感じたことがなかった
⇒調べれば色々なことがわかり、わかったことで周囲と同じ話題で話すことができるようになった
例：「調べればすぐにわかることなのに、知らないってつまらないことですね」と担任に話した

②について

- ・年度当初の話題は、自分の入所する施設内の出来事であり、一方的な会話になりがちであった
⇒色々な情報を獲得したことで、他者と共通に話し合える話題が増え、話題が豊富になり、双方向の話し合いができるようになった
例：「色々なことを調べるだけで、友達と同じ話題で話せるのに、何で今までしなかったのかな」と担任に話した
- ・年度当初は、知らない言葉や興味のない話題になると横を向いたり下を向いたりしていた。
⇒自分が知らない話題に気づくと自分から質問するようになったり、自分がわからない話題であっても「後で〇〇について調べよう」と話したり、話し手の顔を見て話を聞いたりするようになった
例：給食中、話し手の顔を見て相づちを打ったり、「それって何ですか？」と質問したりするようになった

③について

- ・環境から他者と適切なコミュニケーションをする機会が少なかった

(入所施設は重度重複の肢体不自由児が多い。小中学部時代は、通常課程は本生徒一人であることが多かった。本校には高等部から入学)

⇒自分が提供した話題で笑いながら話し合ったり、電話やLINE等といった顔の見えない状況で相手と楽しく会話ができたりしたことで、自分に自信をもてるようになった

例：「私が調べたニュースについてみんなで話せるって楽しいです」や「LINEは顔が見えないから相手の気持ちを考えることが大切ですね」と話した

・環境から様々な連絡(学校・保護者・施設間の連絡事項)を自分で他者に伝えたことがなかった

⇒学校からの様々な連絡事項を、電話等を使い自分で施設職員や保護者に伝えるようにした

例：担任が「〇月〇日までに、校外学習に参加していいか施設職員と保護者に確認してください」と指示をし、本生徒が取り組む

○その他エピソード

(1)漫画の制作：シャークライダー

作画担当：本生徒(A)

原案担当：クラスメイトの友達(B)、担任、副担任

(2)制作方法

①休み時間や給食の時間に、どのような話にするかをクラスで話し合う

②話の流れをAさんがメモをし、制作する(土日に施設での自由時間で制作)

③担任とコマ割りや台詞について確認し、完成となる

(3)制作目的

・漫画の貸出や感想を聞くことで、多くの人と交流し、さらにコミュニケーション能力を向上させる

・読み手(他者)を楽しませようとする意識を向上させる

・色々な人の感想(プラス、マイナス面含む)を聞くことで、自分の作品を客観的に見られるようにする

(4)効果

・「インターネットに自分の作品をアップしたい」と話し、ブログやfacebook等の利用方法を教師に質問したり、iPhoneを使って自分でブログ等を検索したりするようになった

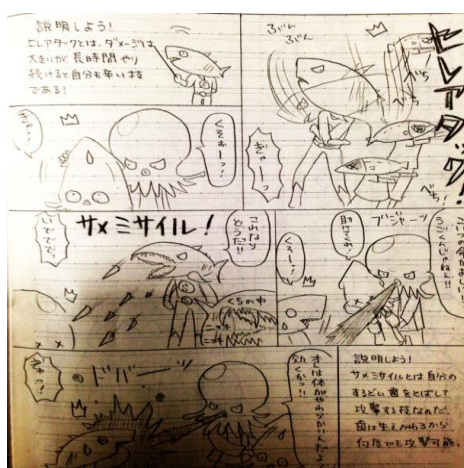
・色々な立場の人と自分の作品について話せる楽しさを実感することができた

・コマ割りや登場人物の表情等の話し合いを通じて、自分の意見を明確に伝えることの大切さを理解することができた

・自分が面白い創作意図と読み手の感想は違うこともあると知ることができた

・自分の作品が常に褒められるとは限らないと知ることができた

※本生徒は今まで自分の作品を他者から褒められることはあったが、助言等を受けたことがなかった



シャークライダー
第2話 3, 4枚目

